

【概要】

平成 21 年度 フラット 3 5 利用者調査

I. 調査の概要

フラット35を利用された方の社会的属性、住宅の概要、資金調達内訳などに関して、金融機関から買取又は付保の申請があった債権で、平成 21年度中に買取又は付保の承認を行ったもののうち 52,308 件(20年度は 38,432 件)について集計。

II. 調査結果の主なポイント

1 30 歳代の構成比が低下

30歳代の構成比が低下した。注文住宅では20年度の49.5%から21年度は44.4%にまで低下している。中古戸建では20年度の41.4%から21年度は36.5%へと低下し、30歳代の構成比が40%を下回っている。〈p1、p3〉

2 1人世帯が増加（マンション）

1人世帯の構成比は、マンション全体で20年度の23.7%から21年度は29.4%へと約3割にまで上昇している。中でも、男性のうち30歳未満では20年度の23.6%から21年度は37.2%となり、男性の年代別分布では構成比が最も高い。

取得した住宅の面積分布別にみると、60㎡未満の小規模なマンションで1人世帯の構成比が69.1%と極めて高くなっている。〈p1、p4、p5、p9〉

3 世帯年収が低下

全体では世帯年収400万円未満の構成比が20年度の16.6%から21年度は21.3%へと上昇している。中古マンションでは、年収400万円未満の構成比が20年度の31.7%から21年度は35.1%へと上昇している。中古戸建では、年収400万円未満の構成比が36.1%と融資区分別では最も高くなっている。〈p2、p7〉